



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第241号

2008年11月6日

みなさん、こんにちは。先日、フランスからお客様が来られました。

● ボンジュール、ジャン！

11月1日は、ドーム展2回目の講演会の日でした。今回の講師は、外国の方。ドームのフランス本社で、アート・ディレクター兼、デザイナーをされているジャン=バティスト・シベルタン=ブラン氏です。フランスから来日し、通訳を介しながら、ドームの大まかな歴史と近年の制作について約1時間半お話いただきました。

パート・ド・クリスタルの技法を用いた制作の様子をスクリーンに映しながら解説し、近年のデザインの傾向として、アフリカをテーマにしたものが取上げられていること、中国や日本の現代のアーティストにも制作を依頼していることなどを紹介していただきました。

後半30分は監修者の池田まゆみ先生も交えて、参加者からの質疑応答が行われました。

2、3の質問が済んだ後、池田先生からも「ドームの作品作りに協力してもらうアーティストは、ど

のように選ばれるのですか？」と堪能なフランス語で、直接に質問されました。その回答は、「まず著名であること、また、細やか過ぎる作品は折れてしまうのでガラスでの制作が可能なこと、時には新進気鋭の作家もとりあげること、そして最後に売れること」だそうです。

ガラス工芸やドームについての見識をお持ちの池田先生が参加され、ジャン氏とやりとりをしながら補足的な解説もあり、参加者の理解は深まったのではないのでしょうか。



講演会の様子 右手に池田まゆみ先生
左手にジャン=バティスト・シベルタン=ブラン氏

講演会には多くの方にご参加いただきました。ドーム展は最終週に入って、来館される方の数も増えてきました。比較的午前中が空いておりますので、まだの方はご参考になさって下さい。

<http://www.akashibunpaku.com> 明石市立文化博物館 編集 中村加奈子（むっちー）